

HITOTSUBATAO

No.2

ヒトツバネ



長崎県生物学会対馬支部報

December

1984

ツシマヒメボタル

内野俊哉

1969年上県町佐須奈で発見され、中根猛彦氏により命名（*Hotaria tsushimana* Nakane 1970）されたもので、対馬特産種である。

これをパパリボタルとする説（佐藤）もあるが、ヒメボタルと同じく後翅を欠くので、中根・大場のホタル目録（1981）に従いたい。

くわしい生態については、研究中であるので後日発表の機会をみつきたいが、ここでは形態、分布について述べることにする。

発生・分布

対馬のみにせい息する陸性のホタルで、アキマドボタルとほぼ同じ水平分布を示す。垂直分布は、平地から標高400～500mの上頂まで分布するのが特徴である。

このことは、ヒメボタルの高地から低地までの分布状況と一致している。

出現期は5月下旬から7月下旬までで、地域的に微妙な差がみられ、また標高が高くなるにつれておそくなる傾向がみられる。このことはせい息環境のちがいが、特に気温の差によるものと考えられる。

図は、1983年～1984年の筆者の調査結果を示した。ほぼ対馬全島に分布していることがわかる。上県郡を中心に調査したので下県郡の空白が目立つがせい息していない訳ではない。今後の調査でうめていきたい。

せい息環境は、スギ、ヒノキ、雑木林でクズ、カラムシ等の雑草がおい茂っているところで適当な湿度を保っていることが条件である。低地、高地との差はないが、コンクリートでかためられたがけの近くにはほとんどいない。この点、アキマドボタルのせい息環境とほぼ一致している。分布図のせい息地には必ずアキマドボタルの幼虫を見ることができた。

出現時間は20時30分ごろから22時30分ごろまでで、ピークは22

シマホタルの分布

シマホタルの分布は、本州の東北から九州にかけて、

とくに、東北の山形県、秋田県、岩手県、

関東の栃木県、群馬県、埼玉県、

中部の岐阜県、愛知県、静岡県、

近畿の京都府、大阪府、兵庫県、

中国の岡山県、広島県、

四国の徳島県、高知県、

九州の福岡県、佐賀県、

熊本県、

鹿児島県、沖縄県に分布する。

シマホタルの生息地は、

主に、清流や湧き水のある

涼しい環境を好む。

また、シマホタルの幼虫は、

水質の悪化に敏感である。

シマホタルの生態について、詳しくは以下の通りである。

シマホタルの雄は、22時前後に、草むらや木かげで発光しているが、22時前後に、♂は♀を求め、地上1.5~3mの高さの所をフラッシュ光を発しながら10mの範囲で飛びかう。発光の間隔は80~90回/分である。草むらにひそんで居る♀の図柄代。♂は、草むらにひそんで居る♀を求め、22時前後に、草むらや木かげで発光しているが、22時前後に、♂は♀を求め、地上1.5~3mの高さの所をフラッシュ光を発しながら10mの範囲で飛びかう。発光の間隔は80~90回/分である。草むらにひそんで居る♀の図柄代。♂は、草むらにひそんで居る♀を求め、22時前後に、草むらや木かげで発光しているが、22時前後に、♂は♀を求め、地上1.5~3mの高さの所をフラッシュ光を発しながら10mの範囲で飛びかう。発光の間隔は80~90回/分である。草むらにひそんで居る♀の図柄代。

一方、♀は草むらで一定のグロー光を発して♂の訪れを待っている。♂の発光パターンは、配偶行動により変化をきたすことはホタル全般について

ツシマジカ

国分英俊

朝まだ暗い凍りついた道を、スピードをおとしゆっくりと車は進む。水たまりには氷がはり、車輪がのるたびにバリバリと音をたてて割れる。時には氷の上を車が横すべりすることもあり、きもを冷やされる。

ツシマジカを見ることができる場所に近づく。車をとめ、はやる気持ちをおさえ、三脚にレンズをとりつけカメラをセットする。再び車を動かし数百メートル走る。定位置にとめ、ドアをしずかにあける。外に出て、ゆっくりとまわりをみわたす。いた！ / ~2m の高さに伸びたヒノキの間にスクッと立ち上がったツシマジカの姿。その距離7~80m。立派なツノをかざし、こちらを見すえている。微動だにしない。写真をとるのにはまだ光がたりず、シャッターを切ることはできない。

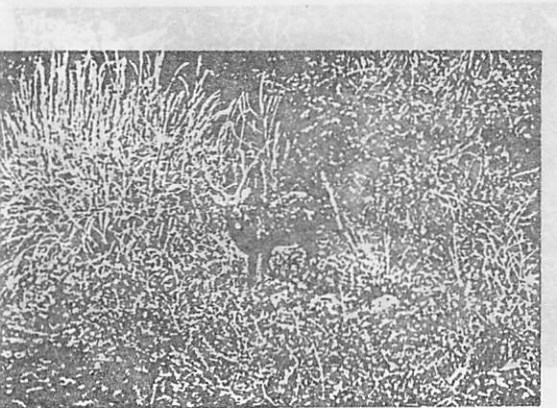
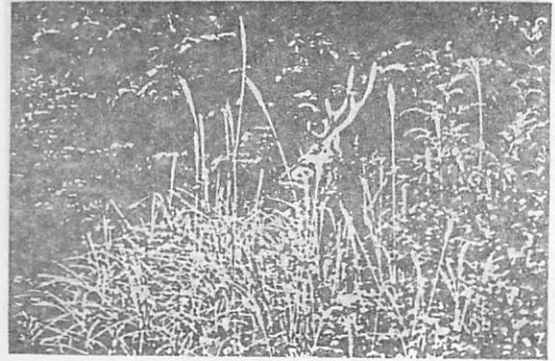
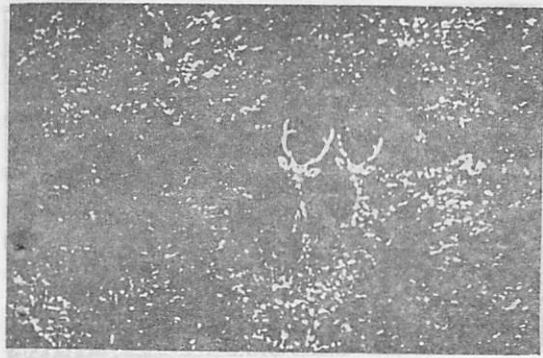
時間はすぎていく.....。

2年ほど前からツシマジカの写真を撮りに行くことがなくなった。というのも、ツシマジカの捕獲がはじまってから、行っても見ることもさえできなくなってしまったからである。

この写真は、数年間撮りためたもののうちから撮作であるが良いものをえらんでみた。すでに発表しているものも含まれるが参考として見ていただきたい。

今年は、保護区域外でのツシマジカの狩猟が認められた。大変にがにがしい気持ちで狩猟期が終わるのをまっている今日このごろである。

(巖原中学校)



ツシマジカの生態

群オス

